



# 今創人

いまあじん

12

## interview

日本経済の発展に通産省(現・経済産業省)の果たした役割の重要性はたれも認めるところだ。今日ではその指導力が薄れてしまったと言われているが、果たしてそれでいいのだろうか。中国との競争、地域経済の発展、ベンチャー振興、これをとっても産業政策の視点が欠かせない。次代を担う有力な経済官僚のひとり齋藤健さんだ。経産省出身で、今は埼玉県の副知事として「国と地方」の問題の最前線で奮闘中だ。次のリーダーは、こうした関係の枠に収まり切らない人かも知れない。

### 知らない世界

埼玉県の上田清司知事とは、また知事選の経緯とも異なる衆議院議員時代からの知り合い、その上田氏が03年に知事に当選し、副知事就任を打診された。

「そういう全クリンを一度も考えたことがなかった。地方に出た経験のない自分には難関だろうが、即答できます、2、3日悩んだ末に受けた。受けたのは、埼玉をどう面白くしたかから」。

田氏は就任から日が浅いながらも県内には庄原稲田や浦和製菓など大型プロジェクトが自陣で動いている。2003年7月大きく変わる政情である」と判断した。

経産省出身の副知事は過去にもいるが、東京圏では初。また埼玉県の人事交流は旧通産時代の通産省も半世紀ぶりという。役人として「まったく知らない世界」に飛

### 次世代を担う経済官僚

## 齋藤 健さん

埼玉県副知事

び込んだ。わけだ。枠に収まりきれない。

「自ら官僚にならなければならなかった。通産省に入ったことが、通産省の資源小国の日本が生きていくには外貨を稼ぐしかない。それには良質な製品を作らなくてはならない。通産省の良質な通産省を多くの国と持ってきた。通産省と産業に日本の英知を結集しない。どうやって国が成り立つのか」という自負が、官邸としての齋藤さんの根本にある。

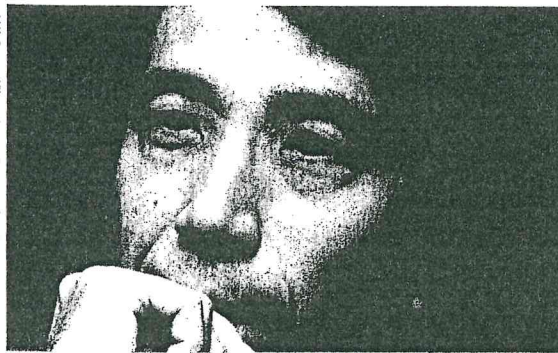
しかし齋藤さんはそれだけに通産省には政治的キャリアには経産行政の枠に収まらないものが多いのだ。内閣官房、内閣府への出向時代には政治的キャリアは政治に関与しない資料を統

# 国から自立の気構えで



ものがある。齋藤さんはこれを貫く向から否定する。「言はば経済官僚の動き方が変わっただけ。必要性は何も変わらない。官邸としては自立すべきものはある。ひやひやかなキャリア。それはいずれ産業政策の中核で活躍する時代が来ることを予感させる。本人にもその覚悟がある。」「今、それを忘れた。埼玉のことで頭がいっぱい。」「埼玉の活躍を、しっかりと見届けたい。」

## 産業政策の重要性は変わらない



に選い」と感じた。もっと産業行政の重要性を広める必要がある。同じ時期、自ら望んで母校の東大で教授をとり、質の高い学生をとり、でも多く露ヶ関に集めたいという思いを行動で表した。齋藤講師の講義には、立ち見が出るほど学生が集まった。少しづつ蓄きためた原稿を本にしたのもそのころ。決して専門ではない歴史の分野。日露戦争では最高峰の判断をした日本陸軍が、なぜわずか30数年で第二次大戦の悪行を招いたか。「まるで通産省のようではないか。行政機構の一員として、歴史の歴史に学ぶ必要がある」と思った。深夜まで仕事に関係ない資料を統

## 今は埼玉のことで頭がいっぱい

### プロフィール

東大時代はソートボール部主将。最高成績は関東リーグ2部優勝。83年(昭58)、経済学部を卒業し通産省入省。91年米ハバロド大大学院で修士取得。通産省政策課長補佐時代は白米自動販売機を担当。このほか中小企業庁企画課長、半導体産業白(臨時)の秘書官、大企業庁企画課長、人事企画官などを歴任。01年内閣府行政改革推進事務局に出向。根本四郎内閣副相(補)補佐官。当選後に離れて戦略ユニットを構築。その片手間で年間、東大の非常勤講師として「生き残り行政」を講義。03年、経産省に異動。東大11年電力系総務課長。04年8月、から内閣府、著書に「歴史の歴史を問う(ち)く(ま)る(ま)る」。妻(2)女。男。東京都出身。45歳。

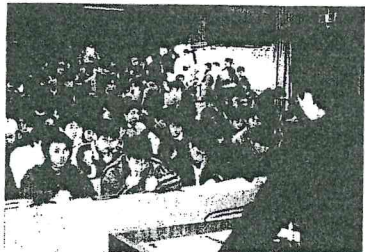
「埼玉に縁はなかったそうだが、これまで東京と米田(留学)以外に住んだことがなかった。でも、副知事に就任して家族と一緒に引っ越してきた。子供も公立の小学校に入った。そうして少くも現場を感じたい。生活の面では、東京と違和感はない。」「地方行政の世界で感じたことは？」「地方の現状は、中央で見ていた以上に大変だということだ。あまり知られていない数字だが、埼玉の場合、70歳以上の人口が2000年から2020年までに

全国平均を上回る2.5倍になる。町村によっては4倍以上だ。今でさえ財政がきついのなのに、これで支え切れるのか。今から子供を増やしても間に合わない。日本は地方から待たない。」「いよいよ三位一体改革について、国と地方の両方の立場を知る齋藤さんはどう見えていますか。」「建前はともかく、国と地方をあわせて700兆円を超過公的債務を返していかなければならないことには変わりはない。負担を国と地方が押しつけ合う構図は、ますます激化するだろう。」「埼玉という自治体の産業政策は、どう考えるか。」「僕もいつも『ひとりプロジェクトX』と言っている。日本という国は中央のスーパー

「少ない税収を有効に使うのは市町村だ。最も住民の望むことが分かっているからだ。そしてさまざまな問題で住民とのあつれきを直接、受けるのも市町村だ。そのフロントラインが住民の声にきちんと対応できるのであれば(税収減など将来、予想される困難な事態にも)耐えられる。心配なのは市町村が立ちゆかなくなることだ。その点をなんとか防がなければならぬ。」「埼玉という自治体の産業政策は、どう考えるか。」「僕もいつも『ひとりプロジェクトX』と言っている。日本という国は中央のスーパー

「少ない税収を有効に使うのは市町村だ。最も住民の望むことが分かっているからだ。そしてさまざまな問題で住民とのあつれきを直接、受けるのも市町村だ。そのフロントラインが住民の声にきちんと対応できるのであれば(税収減など将来、予想される困難な事態にも)耐えられる。心配なのは市町村が立ちゆかなくなることだ。その点をなんとか防がなければならぬ。」「埼玉という自治体の産業政策は、どう考えるか。」「僕もいつも『ひとりプロジェクトX』と言っている。日本という国は中央のスーパー

「今創人」に対するご意見を寄せ下さい。FAX 03-5644-7089 メール jf41530@ky.nikkan.co.jp



質の高い学生をひとりでも多く露ヶ関に集めたいと自ら望んで母校、東大の教壇に。講義は立ち見が出るほど

文 カメラ 編集委員 加藤正史 齋藤邦裕 (木曜日に掲載)